令和５年１月２６日

令和４年度　学校評価アンケート集計結果

相馬支援学校

１　実施方法

本校教員、保護者、高等部生徒に質問紙法によるアンケートを実施した。

本校教職員はＧｏｏｇｌｅフォームで電子回答とし、保護者、高等部生徒については、質問用紙により回答を得た。

２　回答率

保護者　　　　７５％
生徒　　　　　８６％
教員　　　　　９５％

３　評価基準

評価については、教員、保護者、については４段階とした。

評価	4	3	2	1
評価基準	そう思う (達成できている)	まあそう思う (概ね達成できている)	あまりそう思わない (やや努力が必要である)	そう思わない (努力が必要である)

高等部生徒は、「はい」、「いいえ」、「どちらともいえない」から選ぶようにした。

４　回答結果

保護者、教職員

【学校経営】

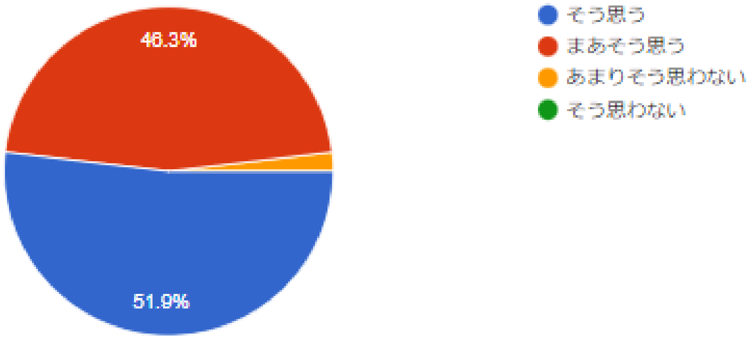
前回の中間アンケートを教員にとったところ、８８．６％の教員が学校経営・運営ビジョンに掲げている目標を実行できたと回答している。

今回は学校経営・運営ビジョンの基本方針のどの部分ができていると捉えているかが明確になるように、質問を細分化し回答してもらった。

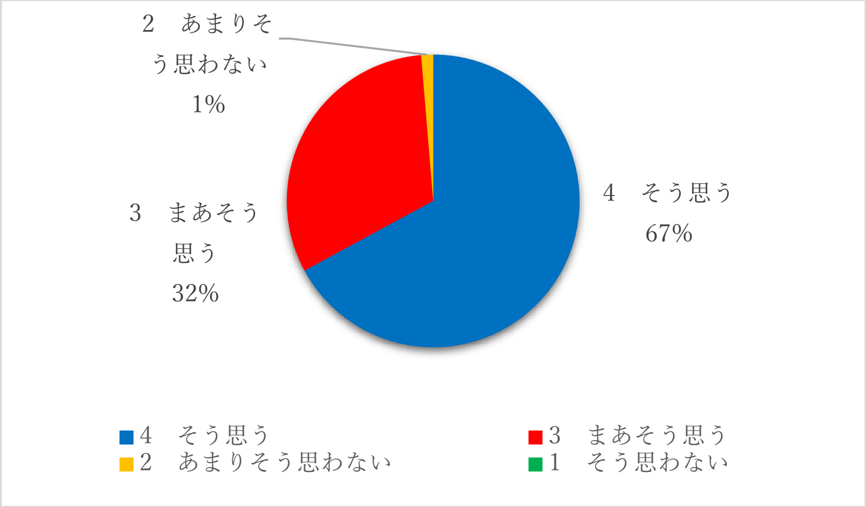
また、教員と保護者間の意識の違いがあるかを明確にするために同様の質問を一部行った。

〇　子どもたちの可能性を信じ、持てる力を最大限に発揮できるように教職員全員で支えていると思いますか？

□　教員

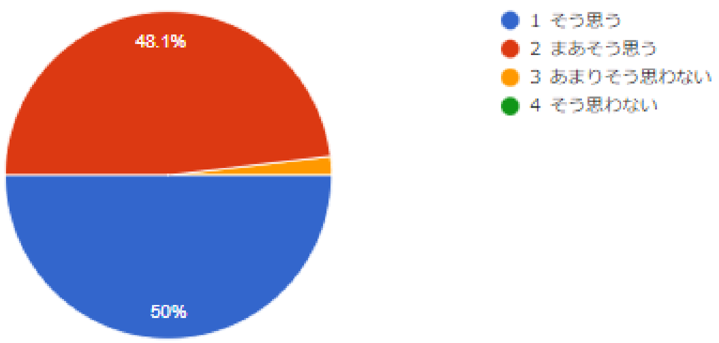


□　保護者

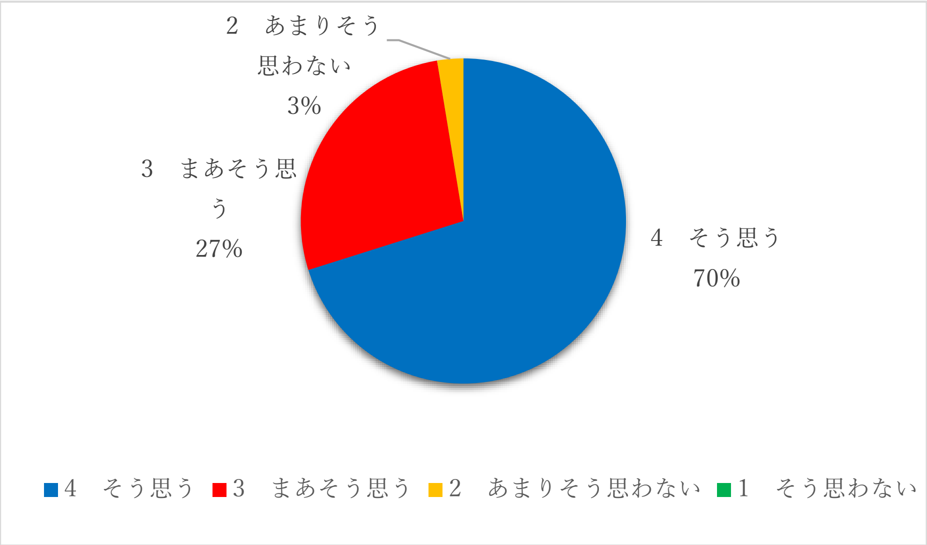


○　子どもたちや保護者の思いや願いを大切にしていると思いますか？

□　教員

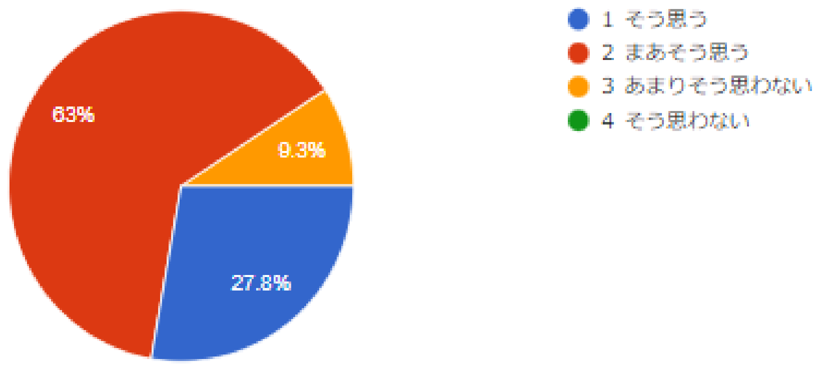


□　保護者

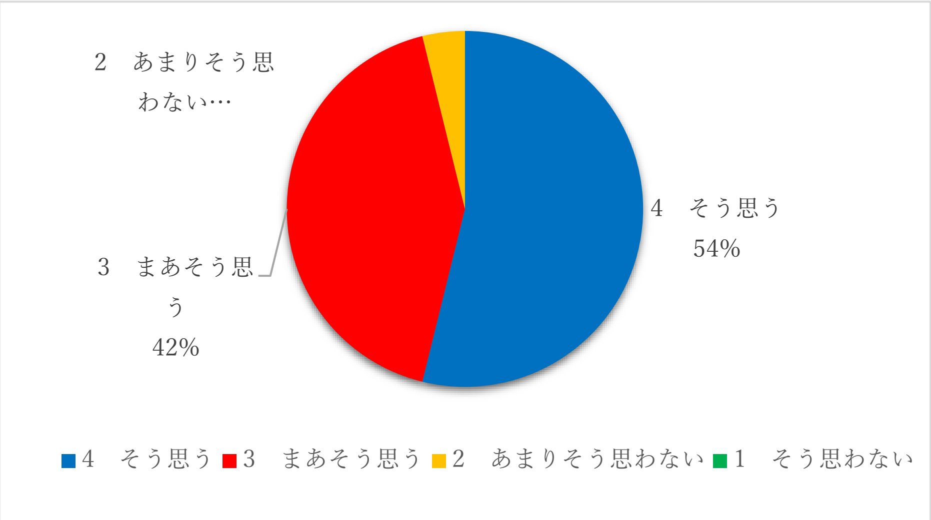


○　相馬地区における地域で共に学び共に生きる教育を推進していると思いますか？

□　教員



□　保護者



＜分析＞

概ね学校経営・運営ビジョンについては、教員は意識して取り組んでおり、保護者も学校経営・運営簿ジョンの内容については、取り組まれていると捉えている。しかし、「そう思う（達成できている)」と捉えている割合は、教員の方が少ない。教員側は概ね達成に近づいているが、もう少し取り組む必要があると捉えているようである。

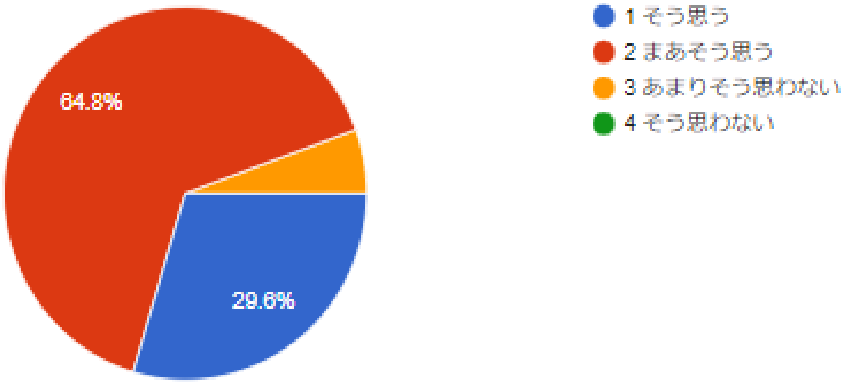
地域で共に学び共に生きる教育の推進については、他の質問より「あまりそう思わない」の割合が高くなっている。また、「そう思う」の割合が、保護、教員共に低く、取り組んではいるが、達成までは達していないと感じている。

交流及び共同学習を通じ、地域の学校や地域の方々と交流したりする活動は設けているが、共に生きるところへの結びつきが見えにくいことが課題としてあげられる。卒業生が地域で生きる姿などを積極的に保護者に発信するなどの取組が必要かもしれない。

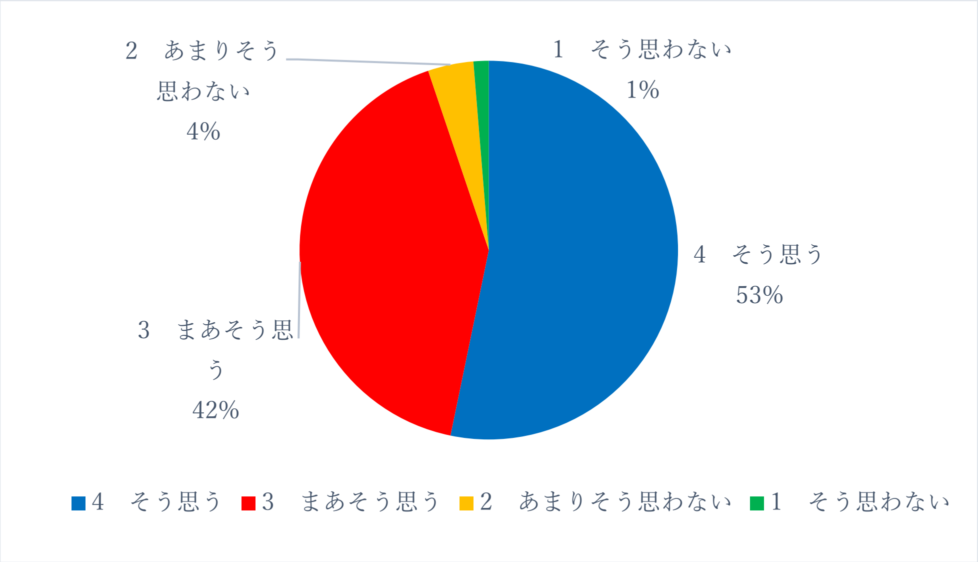
【地域との連携】

○　学校は地域の医療、保健、福祉、教育と連携していると思いますか？

☐　教員



☐　保護者



＜分析＞

保護者、教員ともに、「相馬地区における地域で共に学び共に生きる教育を推進していると思いますか？」の質問結果と似たような割合になっている。

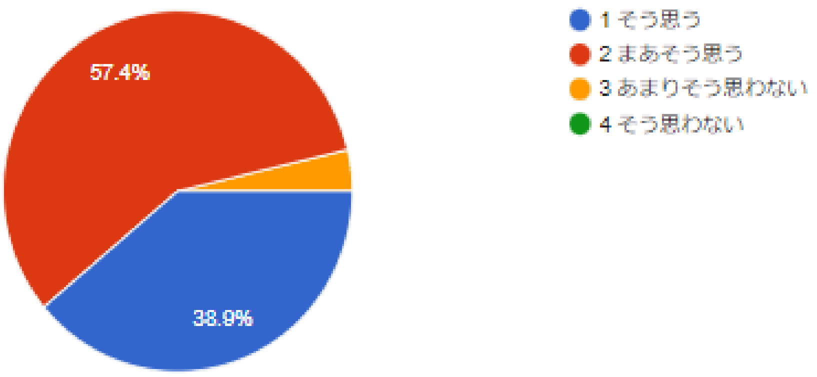
連携している姿が見えにくいことが考えられる。また、今回の質問では、労働は入れてなかったが、進路指導の充実の観点からも質問には入れるべきであった。

医療との連携については、医療コーディネーターや基幹相談支援センターとつながりをもつことで、医師から意見を伺うことや、医師に学校での様子を伝える等、学校と医療がつながり始めている。福祉とのつながりにおいては、ケース会議等も開いているが、会議の結果が十分に生かし切れない状況も見られるため、連携とはどういうことかについて再度考え、どのようなやり方で行うのかをケースによって模索していく必要がある。

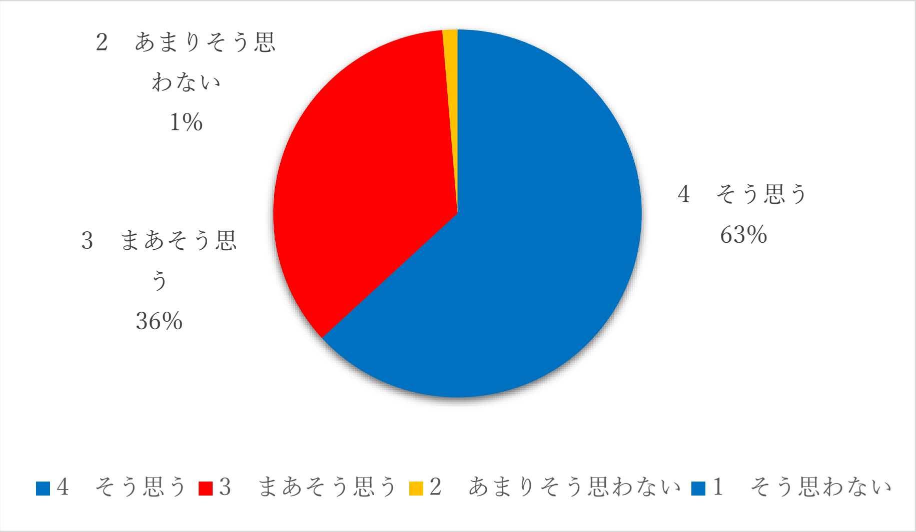
【安心・安全】

○　自然災害や感染症などへの対応に迅速かつ丁寧に取り組んでいると思いますか？

□　教員



□　保護者



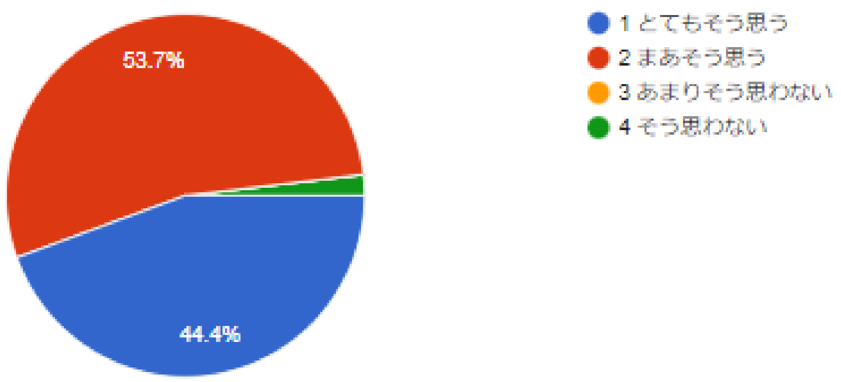
＜分析＞

保護者は「そう思う」が「まあそう思う」を上回った結果であるが、教員は逆であった。校内において、防災関係の物品が整備されていない部分が大きく、今後整備していく必要がある。また、防災関係のマニュアルについては、随時見直ししていき、慌てずに対応できるようにしていく。

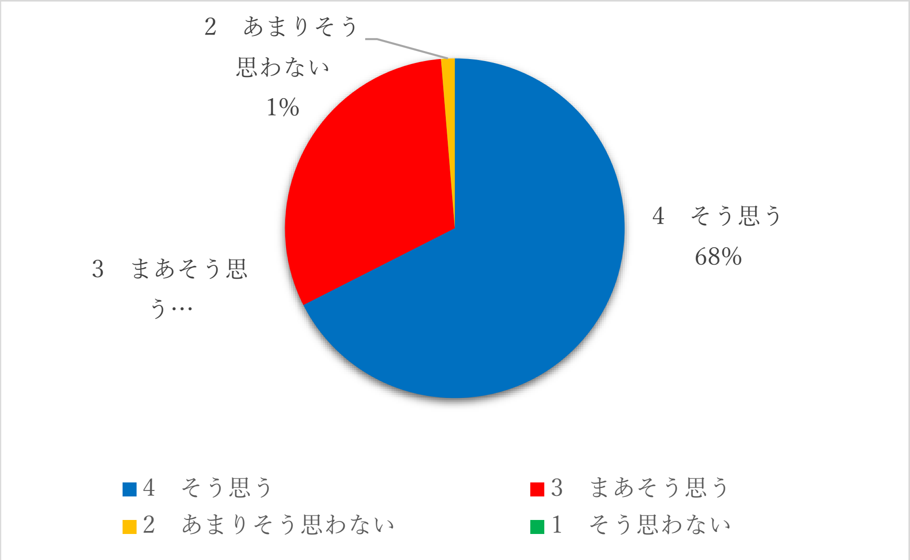
【不祥事防止】

○ 学校の教職員の振る舞いは適切であり、不祥事根絶に努めていると思いますか

□ 教員



□ 保護者



＜分析＞

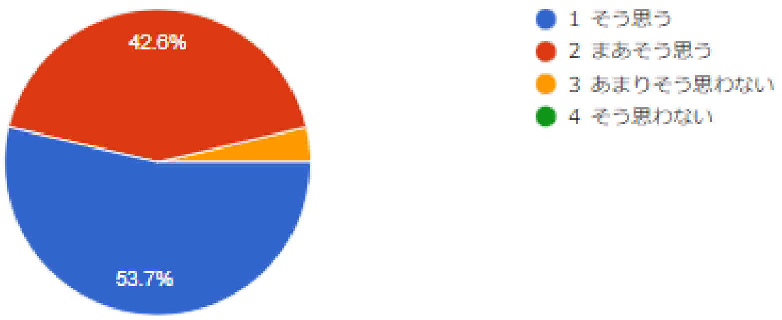
教員も保護者も教員の振る舞いについては、適切であると感じている。しかし、その一方で「そう思わない」との回答もあるため、常に教育公務員であることを意識して行動することを忘れてはならない。また、「子どもの人権を尊重した指導・支援を行っているか」については、概ね「そう思う」、「まあそう思う」の回答であった。普段から不祥事防止について心がけ、特に体罰については、しっかりと考え、いつでも子どもの人権を尊重しながら指導に当たることを忘れてはならない。

【重点目標】

重点目標については、保護者と教員とで質問内容を変えている。教員には、２つの重点目標についての評価を求めたが、保護者には重点目標が達成された際の姿の評価を求めた。

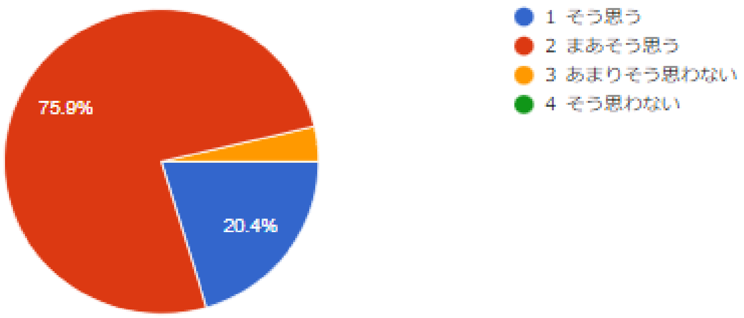
〇　カリキュラムマネジメントを効果的に進め、単元構想や学習効果の充実が図られていると思いますか？

□　教員



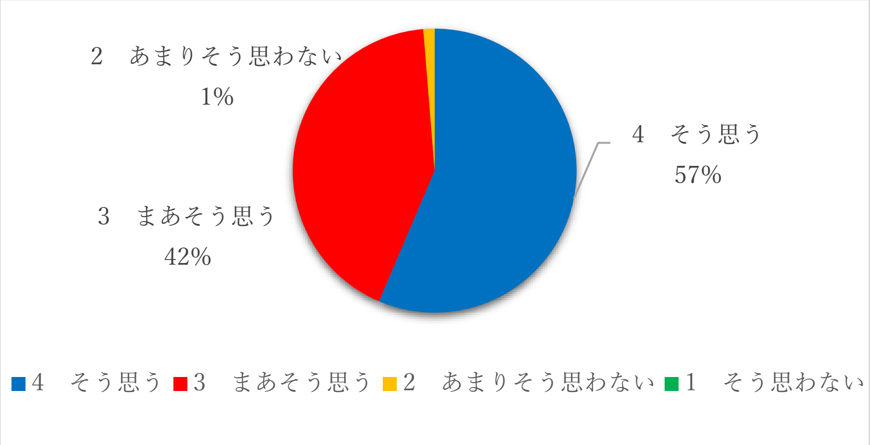
「特別活動」「特別の教科　道徳」及び「総合的な学習（探究）の時間」の指導の充実が図られていると思いますか？

□教員



〇　学校の教育活動の質は向上していると思いますか。

□　保護者



＜分析＞

特別活動」「特別の教科　道徳」及び「総合的な学習（探究）の時間」の指導の充実については、意識して取り組んでいるとともに、カリキュラムマネジメントを効果的に進め、単元構想や学習効果の充実に努めている。また、保護者側も、それによる教育の質の向上は感じている。

今後ともカリキュラムマネジメントをしっかり行い、常に教育の質の向上を図っていく。